

JAPN IBD COVID-19 IBD Taskforce の設立について

COVID-19 は IBD 診療においても多大な影響を与えています。患者さんや実地医家の先生方も多くの不安を感じていることと思います。IBD 班では先日、第一報として日本の状況をご報告させていただきましたが、多くの先生方より支援のお言葉とともに継続した情報発信の必要性のご指摘を受けました。研究班としましてもできるだけタイムラグがない形で客観的で正確な情報を発信できるように、JAPN IBD COVID-19 Taskforce を設立いたしました。先生方の診療の一助になり、患者さんの不安が少しでも解消できればと思います。最後に COVID-19 対応に追われる中で、快く taskforce をお引き受けてくださったメンバーの先生方に深く感謝いたします。

2020年4月19日

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

研究代表者 久松理一

Taskforce メンバーより

「新型コロナウイルス (SARS-CoV2)」の流行に伴い、全世界の医療体制にも影響が出ている状況です。現場の先生は、皆さん本当にご苦労されていることとご察しいたします。令和2年度(2020年)より、厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)難治性炎症性腸管障害に関する調査研究は、杏林大学消化器内科学講座久松理一教授が班長に就任されました。

「日本の炎症性腸疾患 (IBD) 患者さんならびにその診療に携わる実地医家の医師のために、IBD における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関する情報を集積・整理し、皆様にお届けする必要がある。」という久松班長のお考えのもとに、2020年4月 COVID-19 JAPN IBD Taskforce が設立しました。

久松班長からは、Taskforce メンバーとして、仲瀬裕志(札幌医科大学: Taskforce リーダー)、松本主之(岩手医科大学) 松岡克善(東邦大学医療センター佐倉) 松浦 稔(杏林大学) 大宮直木(藤田医科大学) 飯島英樹(大阪大) 石原俊治(島根大) 平井郁仁(福岡大) の八人が指名され、現在活動を開始しています。

本 Taskforce の主たる目的は

1. 日本の IBD 診療に向けての提言 (Q & A 方式を考案中)
2. 文献情報の発信
3. 世界の real-time な状況 (SECURE-IBD) のサマリーです。

今後、班会議としては、日本の炎症性腸疾患患者の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の実態調査にも取り組む予定になっております。

我々臨床医が IBD 診療における新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報を周知することこそが、患者さんの不安を取り除き、そして何よりも IBD 患者さんにより良い治療を届けることにつながります。新しい情報について、逐次皆様にお伝えしていく予定ですので、ぜひ JAPAN IBD COVID-19 Taskforce からの情報をご覧くださいませようよろしく願いいたします。

2020年4月19日

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

JAPAN IBD COVID-19 Taskforce

リーダー 仲瀬裕志

松本主之

松岡克善

松浦 稔

大宮直木

飯島英樹

石原俊治

平井郁仁